



プレスリリース No. 16/63
即時解禁
2016年2月19日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

IMF 理事会、クリスティーヌ・ラガルド氏を専務理事（2期目）に選出

国際通貨基金 (IMF) の理事会は本日、クリスティーヌ・ラガルド氏を IMF 専務理事に選出した。同氏は 2016 年 7 月 5 日から 2 期目・5 年間の任に就く。理事会はコンセンサス方式により同決定に至った。

1 月 20 日に合意された[選出プロセス](#)に則り、理事会は[唯一の指名候補者](#)だったラガルド氏本人とのものも含め協議を重ね、本日の決定に至った。本日の協議の後、理事会のアレクセイ・モージン筆頭理事は以下のように述べた。

「この決定を下すにあたり、理事会はラガルド氏が 1 期目で示した強力かつ賢明なリーダーシップを評価した。世界経済が混乱するなか、ラガルド氏は、政策助言、能力開発及び融資を通し加盟国を支援する IMF の能力を強化した。さらに同氏は、新興市場国や途上国メンバーを含め世界に広がる加盟国との関係を再活性化するうえでも重要な役割を担った。

また今後に関し、理事会はラガルド氏が重視する点、すなわち、IMF はその全ての活動で引き続き機敏性を発揮し、マクロ経済の安定性に影響する全ての面について統合された助言を行うに十分な環境を整備し、さらに全加盟国のニーズに応えることを重点とすることを歓迎した。理事会は、世界の経済と金融の安定性の確保への支援という IMF の目的の達成において、今後も専務理事と密接に協力していく」

背景：

ラガルド氏は、2011 年 7 月 5 日に 1 期目の任に就いた ([プレスリリース No.11/259](#))。2016 年 1 月 20 日に理事会が、能力に基づいた透明な手順を採択し選出プロセスを開始 ([プレスリリース No.16/19](#)) した。

専務理事は、IMF スタッフの長及び 24 人が構成する理事会の議長としての責務を担う。4 人の副専務理事及び 147 カ国から採用されたスタッフ約 2,700 人の補佐を受け、IMF の業務を行う。

[専務理事の選出プロセス](#)に関するファクトシート

2011 年の IMF 専務理事選出以前、フランス国籍のラガルド氏（60 歳）は、フランスの財務相及び対外貿易担当相を務める。また、反トラスト法、労働法弁護士として多方面でのキャリアを誇る。ベーカー&マッケンジー国際法律事務所のパートナーとして活躍、1999 年に同事務所のグローバル・エグゼクティブ・コミッティーのチェアマン、その後 2004 年にはグローバル・ストラテジック・コミッティーのチェアマンに就任。フランスで初めて入閣する 2005 年 6 月まで同事務所のトップを務める。エクス=アン=プロヴァンス政治学院（IEP）及びパリ第 10 大学ロースクールで学位を取得。また 1981 年ベーカー&マッケンジー国際法律事務所勤務以前に同ロースクールで講義をした経験も有する。2011 年、1944 年の IMF 創設以来初めて女性で IMF のトップに就いた。

[ラガルド氏の経歴](#)を見る